

令和6年度第2回神奈川県地方独立行政法人神奈川県立産業技術  
総合研究所評価委員会 議事録

**議題1 令和5年度の業務実績評価について**

---

事務局が資料1から資料4までを説明した。

引き続き、地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所（以下、「K I S T E C」）が自己評価について説明した。

**【質疑応答】**

**○久宗副委員長**

非常に状況を反映して取り組んでいるので、私としてはこのまま進めていただきたい。

**○吉川委員**

私も今回の結果に異議はないので、このまま進めていただきたい。

強いて言うと、県の方からコメントがあった4つの項目で、それらを達成していくために具体的にどのようなことをしたらいいのかというところ。

例えば広報の強化ということだが、どういう状態に県はなってほしいくて、それを具体的に達成する手段ってどういったものになるのかということ深く考えていけると、県の期待に沿った形で実現していくのではないか。

人材育成のところ、人材の確保が難しくなっているのは社会全体の問題だと思うので、K I S T E Cだけがたくさんいい人材が取れているという状況ではない中で、では何がやっていけるのかということ具体的に考えていけない。例えば前回、評価委員の皆さんから出ていたシニアの活用みたいなやり方もあるかもしれないし、あるいは就業期間が長くなっている中で、今他の専門分野にいる方のリスクリングみたいなこともあるかもしれないし、他にもいろいろやりようがあるのかもしれないが、具体を皆さんで共有して取り組んでいけるといいかと思う。

**○遠藤委員**

評価は気づいたところはないが、業務運営の改善のところ、今期から収支の見える化を行ったということで、見える化をどの程度までやっていて、それを今期の結果にどのように反映されるのかということをお伺いしたい。

**○K I S T E C**

これまでは事業ごとに執行率を見ていたが、6年度初めからは事業を進める部署ごとに毎月課長クラスが出席する業務進捗会議と、役員・部長が出席する部長会議で収支を共有しながら管理を行うよう進めている。事業ごとというよりは部単位で整理することで、収支をより一層精度良く管理していこうという趣旨でそのように進めている。

○遠藤委員

そうすると、課長とかが計画を立てて、それを下の方に伝達して、これからどうするかを各部署に任せてやるということか。

○K I S T E C

そういう趣旨で進めている。

○遠藤委員

そうすると、末端の方まで数字が見えるのか。意外と会議をやっていて上の方だけしか数字を把握していなくて、実際に運営しているところには数字がいかないということがあるが、そういうようなことはないか。

○K I S T E C

部課長から伝達するという事なので、どこまで届いているかというところはあがるが、部をまたがることもある事業ごとであったものを月ごとに部で収支の数字を共有していこうと進めているところである。

○K I S T E C

末端まで数字が行っていないとか、情報が届かないというのは、これに限らずあったが、部長会議を含めて、各部長にはちゃんと下まで報告するように伝えている。各GL、係長のところにも情報が行く、係長から下まで情報を流していく。ただ、100%かは調べていないのでわからないが、毎回、この収支に限らずそういうお話は出ているので、事あるごとに周知をする。

収支の見える化は今までは四半期ごとであったが、前回の収支に関してはご意見いただいたので、今年度からは毎月収入の予算に対する執行率、支出の予算に対する執行率も毎月ごとに出すようにした。また、セグメントごとでは、責任の所在が明らかにならないので、部ごとにきちんと事業ごとにやるように見直した。ただそれが100%できているのかと言われれば、いろいろ事情があるので、行っているものがあれば行っていないものもある。それについては随時修正しながら年間の目標を達成していきたい。

○橋本委員

今の質問の続きになってしまうが、県のコメントで、成果は上がっているが年度途中のニーズに柔軟な対応が可能になるようにという、年度途中のニーズというのは具体的にどのようなニーズに応えてほしいというコメントなのかを教えてほしい。

○事務局

今までは年度途中にきめ細かく正確に見られていなかった部分があったが、途中途中で目標値に対してどの程度達成しているのかというところを、今は毎月行っているので、5年度の評価に比べるとしっかり進歩していると考えている。

○橋本委員

年度の途中で、追加で予算を付けてほしいとか、そういうニーズに応えるというわけではなく、まず状況を見えるようにしてほしいというニーズということか。

**○事務局**

収支について達成状況等が途中でわかるということは重要と考える。

**○堀委員**

前回、ご報告いただいていたとおり非常に良い成績で、それを進めていただいているかと思う。これまでと同じになってしまうかもしれないが、県とK I S T E Cで齟齬のあった件で、あらためて確認させていただきたい。私自身、行政のやり方に精通しているわけではないので、この書き方をすると、ニーズに柔軟な対応ができていないという風に読み取れるが、柔軟に対応ができていない原因というのは、精度が足りてないということなのか。

**○事務局**

こちらに書いてあるのはあくまで昨年度の状況である。昨年度で言うと、年度途中での見込み等が、後で決算見込みやそのあたりの最終的なデータを見ると乖離があるというところがあったと思う。

**○堀委員**

もう改善されているから問題ないということか。

**○事務局**

今回のものは5年度のものであり、今年度は毎月管理されているので問題ない。

**○堀委員**

ということは、精度が高くなると、予算を別に付け直すということが可能になるのか。

**○事務局**

収支の乖離というところについてよりきめ細かく把握するということがだが、広く言えば確かに予算の経理執行のなかで例えば流用対応だとか、補正予算はよほどの場合だが、そういった対応も検討できるかと思う。

**○堀委員**

そうすると、柔軟にというのは、予算の枠内で執行ができていないところをちゃんと達成するように柔軟に動けるようにしてくださいという意味であって、他のニーズの高いところに予算を付け直すということではないということか。

**○事務局**

例えば途中で足りていないということがあった場合には、流用対応をして、別のところに費用を配分するということが経理上の手続きとしてはできると思うので、そういうことを含めてということである。

## ○堀委員

よりニーズに柔軟に対応し、県の期待に応えられるように、精度を上げていただければと思う。特に大きな問題はないと思うが、新しい取り組みをするには、なかなか時間も限られているので、早めの予算づくりが大事だと思う。一度作ってしまうと動かしづらいところがあり、緻密に来年度の計画に対してニーズを先取りして進めていくという方が普通かなと思うので、そのように進めていただければと思う。

## ○K I S T E C

確かに、柔軟にというところがわかりづらいと思うが、一番わかりやすい具体的な例でいうと、年度の中で予算通りに行ってくればいいが、突発的なものがある場合がある。例えば最近で言えば電気料の大幅な値上げ、これ自体は必ず使うし、必ず払わなければならない。ということは他を削ってでもそこに投入しないといけないときに、予算の把握が甘いと、きちんとしたところにお金がいけないということになるので、おそらく神奈川県指摘は、そこをきちんとやりながら必要などころには必ずお金が入るようにという趣旨だと思う。簡単に補正予算を付けるとかそういうことではないと思うが、きちんと予算を管理して運営してくださいと、そういう意味だと理解している。

## ○岸本委員長

私もこの評価で適切だと思う。

今の議論となっている件について、県がこのように書いたということは、予算の立て方が県としてK I S T E Cが円滑に活動するのにふさわしい立て方になっているかということに戻ってくるかと思う。新たなニーズというのは電気料だけではなくて、いろいろなことが急速に変化しているので、やはりその時代に合わせて新しいことをやらないといけないということが年度途中で出た時に、費目の切り替えがちゃんとできるかどうか。途中でちゃんと明細書を見ていて、これだけお金に余裕があるからこの金額をこちらに移して使えるとか、むしろ大括りな予算化にして、K I S T E Cの方でそういった柔軟な対応ができるかとか、そちらに向かっていくことが大切なので、このニーズに柔軟に対応というのはむしろ県がやっていかなければいけないことではないかということコメントには書いておきたいと思う。両方での問題なので、県の予算をちゃんと使うためには、硬直化した予算ではなくて、K I S T E Cと相談しながら柔軟に切り替えられる、それをやるには透明化しないといけないと、そのように皆さん解釈したらどうか。

あと、いくつかのコメントの中で、人を増やすことができないとすると、ひとりひとりの能力の向上ということになるので、人材育成は、いま外の人たちに対する人材育成は結構あるが、中でそれぞれの人たちの働きが質を上げていくのにどうするかということに返ってくるかと思うので、K I S T E C

で働くと、いい働き場所になっているということをわかるようにしていくのが大切かと思う。是非いい方がたくさん入ってくるようにしていただくとありがたい。

広報の強化のところで、いまK I S T E Cのある場所はすごく人が増えている。周りの人たちは東京都の方に結構行ってしまう人も多いが、そういう人たちにK I S T E Cをわかってもらうことが大事。既にされているかもしれないが、K I S T E Cの公開をすとか、近くの人たちにもっとK I S T E Cを知ってもらうことから始めて、それを進めていくと、もっと強化できると思う。そのようなことも参考にさせていただきたい。

評価内容は、この委員会としては適当であるということによろしいか。

(委員から異議なし)

#### ○岸本委員長

評価書の字句修正の確認及び評価委員会として作成する意見書の文案は委員長一任とさせていただくがよろしいか。

(委員から異議なし)

#### ○岸本委員長

それでは事務局の方で評価書の決定手続きを進めていただければと思う。

### 議題2 その他

---

事務局から次回開催予定について連絡した。

#### ○K I S T E C

頂いたコメントのひとつは財務面についてで、柔軟に対応をできるようにとのことだが、運営から経営ということでP L (損益計算書) やB S (貸借対照表) に相当するものを毎月でも出して、また精度の管理についても、営業の棒グラフの様に常に見える化していくということで対応したいと思っている。

人についてはまさにこれから内部で人材を育成していくということに対して取り組んでいく。今ある人材を更に磨き上げる、人の教育というふうに思っているの、人を磨くことによってそれを外の人が見て、あそこはいいと、惹きつける力になっていったらと思う。

最後の広報、アウトリーチはまさに最も現代において重要なことと認識しているので、SNSだけでなく、近隣の若い人たちも含めて我々の人材教育の

場としていきたいと思う。  
引き続きご指導いただきたい。